

「桐生を好きな子供」の育成

— 地域の人的・物的教育力の活用を通して —

桐生市立梅田中学校

1 はじめに

これからの社会を生き抜いていくためには、社会の形成者としての自尊心・自己肯定感・自信の育成が必要であると考え、本校では「社会に開かれた教育課程」を理念とし、「子どもたちが未来の創り手となるために求められる資質・能力を育てていく」を目標としている。そして、その目標を達成するためのポイントの一つを「地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、開かれた学校教育の展開」とした。つまり、教育課程を介して、学校が社会との接点を持ちつつ、多様な人々とのつながりを保ちながら、学ぶことのできる環境づくりが必要であると考えた。そして、その実現のためにはカリキュラムマネジメントが大切であり、それを考える上での大事な課題の一つが「教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を地域外の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。」と考えた。

このように学校だけでなく、地域の人的、物的資源の活用した教育活動を展開することが「桐生を好きな子供」を育てることにつながっていると考えられる。

2 概要

本校では、各教科や総合的な学習の時間を活用して地域の方々との交流を年間指導計画に位置づけて行っている。梅田公民館、各種団体、地域の施設、事業所の方々を招いて指導していただいたり、生徒が施設等に訪問したりして交流活動を行っている。

〈第1学年〉

- 土鈴づくり（美術科）
- バンダイ餅づくり（家庭科）
- 福祉体験学習（総合）
- 高齢者福祉施設訪問（総合）

〈第2学年〉

- サロン活動（総合）
- 職場体験学習（総合）
- 和菓子のデザイン（美術）
- 和紙づくり（美術）

〈第3学年〉

- 木材加工（美術）
- ◎梅田文化まつり（総合）

〈学校全体〉

- 体育祭 「梅田音頭」（体育）
- 梅田ウォークラリー（部活動）



バンダイ餅づくり



職場体験

3 活動の様子

(1) 「梅田文化まつり」の企画・運営・協力について

9月28日(土)、29日(日)の2日間、梅田公民館主催の「梅田文化まつり」が梅田南小学校で行われ、3年生が企画、運営、そして協力させていただきました。

1年生から行っている地域交流の集大成として、地域のためにできること、地域貢献として「梅田まつり」への企画、運営、協力を行いました。

(2) 「梅田文化まつり」までの流れ

①梅田文化まつりについて

7月4日に梅田公民館、渡辺館長に来校していただき、「梅田文化まつり」についての講話をいただきました。渡辺館長から「梅田文化まつり」の内容だけでなく、これまでの経緯やまつりを通して地域の活性化につなげたいという願いを生徒に伝えていただきました。また、中学生が企画、準備から当日の協力はとてもうれしく、期待しているというお話もいただきました。



渡辺館長の講話



バルーンアーチの設置

②企画、準備

生徒は自分たちにできることを話し合い、「チラシのイラスト」、「会場案内の看板づくり」、「クイズ大会の計画」といった案を出し合い、担当に分かれて準備を進めました。その他にも「入場門づくり」、「景品のポケットティッシュに梅田カルタを入れる作業」などもみんなで相談し、自分にできることを考えて分担して準備を進めました。前日にはみんなで作り上げたバルーンアーチや看板を会場まで運んで設置しました。

③当日

当日は「受付・ガラポン係」、「ステージ発表(○×クイズ)」、「模擬店のお手伝い」と係に分かれて活動しました。始めは戸惑う姿も見られましたが、友達と相談したり、担当の方々にサポートしてもらったりして、その後は中学生ならではの元気さを発揮し、地域の方々から好評価をいただきました。



受付・ガラポン係

(3) 生徒の感想

- バルーンアーチ制作や看板づくりなど大変だったが、地域の人たちが喜んでくれ、絶賛してくれたので嬉しかった。
- 当日は仕事をしながら地域の人々と交流することができ、仲良くなることができたのでよかった。地域に関わり、貢献することができて良かった。
- 地域の人と話せたり、関わったりすることができた。「お手伝いありがとう。」、「お疲れ様。」と言われてすごくうれしかった。頑張って良かったと思った。

4 おわりに

地域との交流活動を行うことは、地域の方々に学校や生徒の様子を見ていただく機会となり、学校や生徒と地域との関係が近くなる。また、地域の教育力を活用しての生徒育成にもつながると考えられる。このことが社会に開かれた学校づくりの一つと考えられる。また、地域の文化や伝統にもふれる機会となり、桐生を好きな子供の育成につながると考えられる。今後も積極的に地域との交流活動を行っていきたい。